



# IISEE Newsletter



2018年8月30日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第160号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

## 今月の話題

- 研究論文最終発表会
- 中南米地震工学研修在外補完研修
- 中南米地震工学研修の閉講式
- インドネシア出張報告

## 研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

## 研究論文最終発表会

国際地震工学センター 管理室長 飯竹 理広

通年研修の研修生は、5月21日から研究論文を書くため、個別にそれぞれの指導者のもとで個人研修が実施されていました。

8月16日には、久しぶりにすべての通年研修生が国際地震工学センターに集まり、2日間にわたって、個人研修の成果である研究論文の最終発表が行われました。約1年間の研修も残り2週間です。

写真:発表の様子



## 地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

## 論文募集

IJSEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



楽しむのは今です。

## 中南米地震工学研修在外補完研修

国際地震工学センター 主任研究員 諏訪田 晴彦

7/16～7/27の期間、エルサルバドル国において、2018年度中南米地震工学研修(建物耐震技術の向上・普及コース)の在外補完研修が行われました。

在外補完研修は、JICA エルサルバドル事務所、国立エルサルバドル大学(UES)および私立ホセ・シメオン・カニャス中米大学(UCA)の協力に基づいて実施されているもので、主な目的は、中南米諸国では一般的な構造形式である“組積造”を対象として、エルサルバドルで使用される建築材料を用いた構造実験を実際に体験することを通じて、地震入力に対する組積造建築物の強度、変形および破壊性状等を理解することです。

具体的な実験内容としては、アドベ造の傾斜台実験、開口付き枠組み組積造壁およびコンクリートブロック造壁の水平加力実験等であり、これら複数の構造実験を短期間に経験できる大変貴重で有益な研修プログラムです。随行者である私も研修生とともに実験に参加し、実験における予測と観察などについて、いくつかのアドバイスを行ってきました。





## 第5回中南米地震工学研修の閉講式(サンサルドル市、エルサルバドル共和国)

国際地震工学センター長 横井 俊明

7月27日午前、エルサルバドル共和国サンサルバドル市にある Hotel Crown Plaza の “Salón Mesoamerica” ホールで開催された “中南米地震工学” 研修の閉講式に出席しました。次の著名な来賓に御出席頂きました：

エリウド・アヤラ公共事業・運輸・住宅・都市開発大臣、エドガー・ペニャ エルサルバドル大学建築学部建築学部長代理、カルロス・リバス中米大学副学長、JICA エルサルバドル事務局藤代所長、プリズム試験、壁試験および傾斜台試験を指導したエルサルバドル大学教授陣、実大構造試験を指導した中米大学教授陣。この中には、IISEE の国際地震工学研修の元研修員もいました。また、7月16日からサンサルバドルでの構造実験や関連講義に参加した両大学の学生9名、5月15日から全員参加した7カ国の10名の参加者も出席しました。閉講式は心温まる時間となりました。ここに、両大学教授陣を中心に、サンサルバドルでのコースの実現を支えたすべての人に心から感謝の意を表したいと思います。

このコースは、日本のつくばで約2ヶ月間、サンサルバドルで2週間の海外プログラムの2つの期間で構成されています。後者は、ラテンアメリカの地元の材料での構造実験の機会を与えることを目的としています。コース参加者は、海外プログラムに参加しない政府の行政官グループと、全日程に出席するのエンジニアグループの2つに分かれています。また、参加を容易にするために、スペイン語が教授言語として選ばれています。

興味を持った方やより詳しい情報が必要な方は、IISEE まで、“Mejoramiento y Difusión de la Tecnología para la Construcción Sismo-resistente en Latinoamérica” というコース名を参照して御気軽にご相談ください。



### 連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様のご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願いします。

iiseenews@kenken.go.jp  
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

# インドネシア出張報告

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎

芝崎と藤井は、国際地震工学研修の充実・普及に関する調査活動のため、平成 30 年 7 月 1 日(日)~7 月 5 日(木)の日程でジャカルタ(インドネシア)の日本大使館、JICA 事務所、気象気候地球物理庁 (BMKG)、気象気候地球物理大学校(STMKG)を訪問しました。BMKG では帰国研修員 20 名と再会し議論すると共に、IISEE の近況紹介やスマトラ沖地震の再解析結果に関するセミナーを実施しました。また、STMKG では学生を対象としたセミナーを実施した。滞在中には帰国研修員に大変お世話になりここに謝意を表します。

(1)BMKG 元研修生の活躍状況、セミナー、所内の施設見学(7 月 3 日)

- ・IISEE の元研修生の中には、地震津波センター長の Rahmat 氏を筆頭に、Division 長や Sub Division 長の要職に就いている方も多く、BMKG で大いに活躍しています。
- ・BMKG での打ち合わせの後、セミナーを開催した。芝崎は IISEE 研修を紹介し、藤井はこれまでのインドネシアにおける津波研究事例について発表しました。津波走時の遅れや、インドネシアの海溝型地震の空白域、津波地震等について質問がありました。
- ・元研修生が BMKG 所内の施設を案内してくれました。強震観測システムその他、地震情報・津波警報システム(InaTEWS)、振動台(一般向けの振動体験)、歴代地震計の展示室を見学しました。津波データベースの想定シナリオは、約 17,000 ケースとのことです。EasyWave もしくは TsunAWI により地震発生後の津波計算も可能とのことです。SeisComp3 による震源決定、DSS、TOAST 等のモニター画面を確認しました。
- ・地震津波センター長の Rahmat 氏(元研修生)と面会し、BMKG からの研修参加への協力を要請しました。

(2)気象気候地球物理大学校(STMKG)訪問(7 月 4 日午後)

- ・STMKG は BMKG のアカデミーで、日本における気象庁と気象大学校の関係にあたります。Slamet 校長(元研修生)と副校長、元研修生の講師たち(S. Iman, Hendri, 他)と面会しました。また、学生(約 40 人)と講師(8 人、校長含む)に対し、セミナーを開催しました。芝崎は、IISEE 研修を紹介し、藤井は、インドネシアにおける津波研究事例について発表しました。







写真 1. 日本大使館内の会議室にて。  
右から 3 番目が田中書記官



写真 2. BMKG における集合写真  
(打ち合わせ終了後)



写真 3. 集合写真(BMKG 本館前にて)

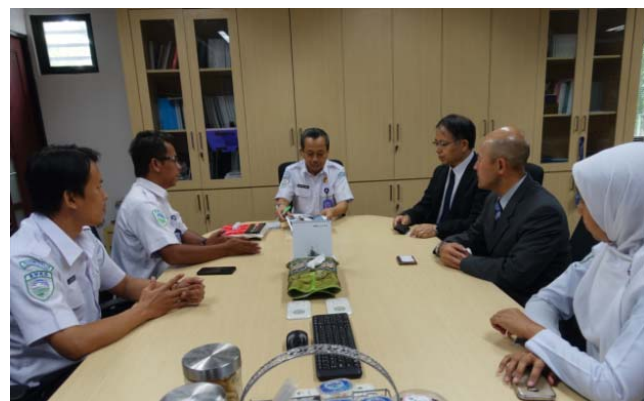


写真 4. 地球物理部門長室を訪問、  
中央が Sadly 副所長



写真 5. BMKG 本館の外観



写真 6. 集合写真2(セミナーに参加した生徒・講師陣と)